



脚延長術について	1ページ
子ども健康教室開催のお知らせ／植物を探せ!vol.18／医療福祉相談室だより②	2ページ
糖尿病ワンポイントアドバイス「今日からできる ながら体操」／「糖尿病教室3月」のお知らせ	3ページ
アレルギー教室のクッキング／外来からのお知らせ／外来診察のご案内	4ページ

小児整形外科領域には、病气やけがなどで、短く曲がったあしを伸ばす“脚延長術”という治療法があります。三重病院には、三重県で数少ない小児整形外科医がいます。では、脚延長術について、さっそく聞いてみましょう。

脚延長術について



脚延長術は、仮骨延長法とも呼ばれ、骨折した時にできる新しい骨、仮骨を利用して骨を伸ばしていく治療法です。骨を少しずつ伸ばすのと同時に、方向や位置を調整して骨の変形を治すこともできます。先天性の骨成長障害をきたす疾患、骨折や骨感染症で成長障害をきたし、両あし(下肢)の長さが違う場合などで、短く曲がったあしを伸ばせます。また、軟骨無形成症などの低身長に対して両あしを伸ばし、身長を高くすることができます。

方法は、まず手術で骨を切り離し、人工的に骨折状態を作ります。

そして骨に体外からスクリューを介して創外固定器を取り付けます。

手術後、創外固定器のネジを操作して、切り離れた骨と骨のすき間を徐々に拡げていくことにより、骨を伸ばします。骨と骨のすき間には、骨折した時にできる新しい骨、仮骨が出現し、自然に埋まり、自分の

骨として完成していきます。

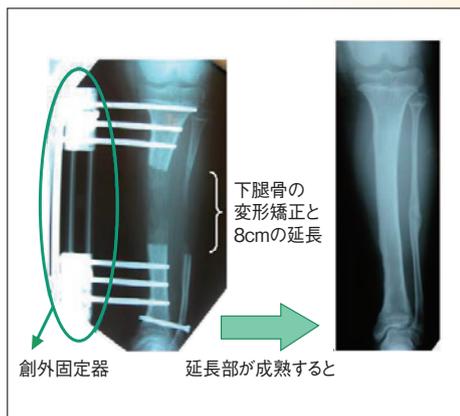
伸ばすスピードは1日に0.5mm～1mmで、スピード調整が重要です。骨を伸ばすということは、皮膚、神経、血管、筋肉など全体を伸ばすことになるため、速すぎるとあしの負担が大きくなったり、新しい骨が途切れたりします。また、遅すぎると骨がくっついて伸びなくなってしまいます。

骨を伸ばしたあとも、骨が強く固まるまでには更に約2倍の日数が必要です。例えば5cm伸ばすのに50日以上、骨が固まるのにさらに約100日位必要ということになります。この間、細菌感染、スクリューの緩みなど合併症に注意します。

適応年齢は、治療に取り組める8歳頃から成人に至るまでです。治療期間は長期となりますが、入院期間は緑ヶ丘特別支援学校に通学し、学業と治療を両立することができます。



13歳時、膝下の変形矯正、脚延長10cm施行



脚延長術については、十分に説明を行ない、治療内容をご理解いただけるように努めています。手術の説明から決断まで時間をかけ、一緒に考えて行きましょう。

(整形外科 西山 正紀
小児整形: 火曜・水曜)